



# 上末っ子

令和3年6月30日

7月号

横浜市立上末吉小学校

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>

## 主体的な学び

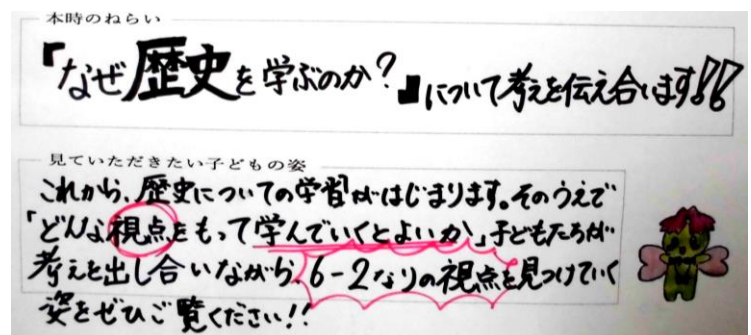
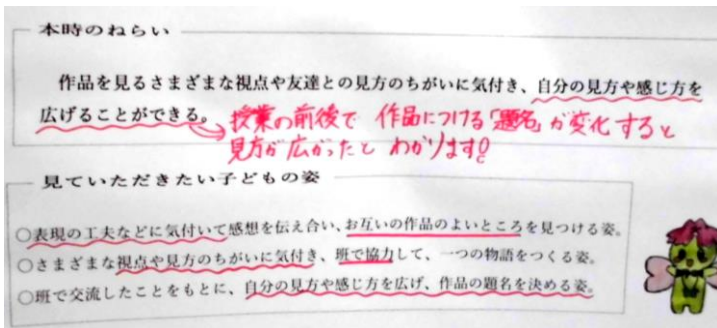
校長 内田 宏平

「学校生活で思い出に残っていることは何ですか？」

以前、このようなアンケートをとった結果が新聞で紹介されていました。上位を占めたのは、修学旅行、文化祭、クラブ・部活動、運動会などです。いわゆる“学校行事”が中心となっていました。学校行事のもつ特別感、フェスティバル的雰囲気思い出として刻まれる側面もありますが、私は、そこに『主体性』があったからだと考えます。より充実した活動になるように、子どもたち自身が考え話し合い創り上げていくその過程、仲間と協力して成功を目指す本番、自身の成長を振り返り次につなげる事後の学習・・・学校行事として取り組む活動には、その端々に、自分なりに考える機会、主体性を発揮する機会があったのではないのでしょうか。

文部科学省の示す学習指導要領（各学校で教育課程を編成する基準）が、小学校では昨年度から新しくなっています。そこでは、「これからの予測困難な時代を生き抜くため」に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を行っていくことの重要性が説かれています。そのような授業が実現できたら、数年後、学校生活で思い出に残っていること上位に「算数」や「国語」といった日々の授業が食い込んでくるチャンスがあると思います。

先日の土曜参観では、教師が「本時のねらい」や「見ていただきたい子どもの姿」を記入し、掲示しました。どのような授業を展開したいか教師として思いをもってチャレンジする意識を高め、目指す姿を保護者の皆様知ってもらうことで子どもたちの成長の喜びを共有したいと考えたからです。



授業は思ったとおりに進まないこともあります。それゆえ、日々教材研究と授業準備を続ける我々教師ですが、授業で見たい子どもの姿をイメージし続けることが、子どもの心に強く残る主体的な学びの場をつくっていくことにつながるのではないかと考えています。

ちなみに、私の小学校時代の思い出ベスト3は、「日光修学旅行」「6年の校外学習」「6年の授業参観」です。

「日光修学旅行」

東照宮に行きました。事前学習をバッチリこなし、「陽明門をじっくり見る！」という決意をもって出発。厳しい寒さの中で見た陽明門の複雑な造りに感激。（夜中にパンツを投げ合っているのを担任に見つかり、こっぴどく叱られた記憶も鮮明に残っています。）

「6年の校外学習」

社会の時間に“わらじ”作り。地域の方に丁寧に教えていただき、立派な物ができました。さらに、それを履いて地域の史跡巡り。足指の間が痛かったけれど達成感は大きかったです。

「6年の授業参観」

社会の授業。弥生時代の住居周りがある堀は土塁の外側にあるか内側にあるか予想して徹底討論。自分の考えが違っていたのも含めて印象深い授業でした。

社会が好きで、記憶に残る授業は社会ばかりの6年担任 K 先生でした（笑）。でも、その熱意が、主体的に学ぶ面白さを実感させてくれたのだなと感謝しています。